

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道10号 <small>しんとみ</small> 新富バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：宮崎県児湯郡新富町大字日置 至：宮崎県宮崎市佐土原町大字下田島		延長 4.8km
事業概要 新富バイパスは、国道10号の交通混雑の緩和や交通安全の確保等を目的とした事業である。		
S41年度事業化	S51年度都市計画決定 (H一年度変更)	S41年度用地着手
S41年度工事着手		
全体事業費	約177億円	事業進捗率
		76%
		供用済延長
		2.3km
計画交通量 25,900～36,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 4.7 (残事業) 6.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 34/311億円 (事業費：27/250億円) (維持管理費：6.6/62億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 207/1,451億円 (走行時間短縮便益：175/1,255億円) (走行経費減少便益：25/165億円) (交通事故減少便益：7.8/31億円)
		基準年 平成26年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=4.2～5.1 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.6～4.7 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.7～4.7 (事業期間±20%)		
【残事業】交通量：B/C=5.5～6.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.7～6.6 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=6.0～6.1 (事業期間±20%)		
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・国道10号の交通混雑緩和及び旅行速度の向上 ②交通安全性の向上 ・国道10号の交通混雑が緩和され、交通安全性が向上 ③医療施設までのアクセス改善 ・第二次救急医療施設（宮崎善仁会病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ④生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）		
関係する地方公共団体等の意見 ①宮崎市長、②新富町長により早期整備の要望を受けている。（①平成26年7月、②平成25年9月）		
県の意見 国道10号新富バイパスにつきましては、交通混雑の緩和や交通安全の確保、沿道環境の改善等に寄与することはもとより、県北地域と宮崎市を結ぶ重要な幹線道路であります。 当区間は、特に、朝夕の通勤時間帯に現日向大橋で慢性的な渋滞が発生するなど、地域住民からも新橋梁の早期整備を求める要望もなされており「対応方針（原案）」の「継続」については、異論はありません。 なお、直轄事業の事業計画において、日向大橋関連及び田中地区が平成29年度開通予定と示されておりますが、早期整備に向けた一層の整備促進をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の人口は増加傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向。国道10号の交通量は横這い。		

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和41年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率76%（平成26年3月末時点）
 昭和43年度：今別府交差点～天井丸交差点間 延長2.4km（2/4）部分開通
 平成11年度：三納代交差点～天井丸交差点間 延長1.7km（4/4）部分開通
 平成19年度：軍瀬交差点付近 延長0.6km（4/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。
 平成29年度：田中地区 延長0.8km（4/4）開通予定
 平成29年度：日向大橋関連 延長1.0km（4/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・地層の変化に伴う岩塊撤去費の増 【約5億円増】
- ・地盤改良の追加等に伴う増 【約3億円増】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

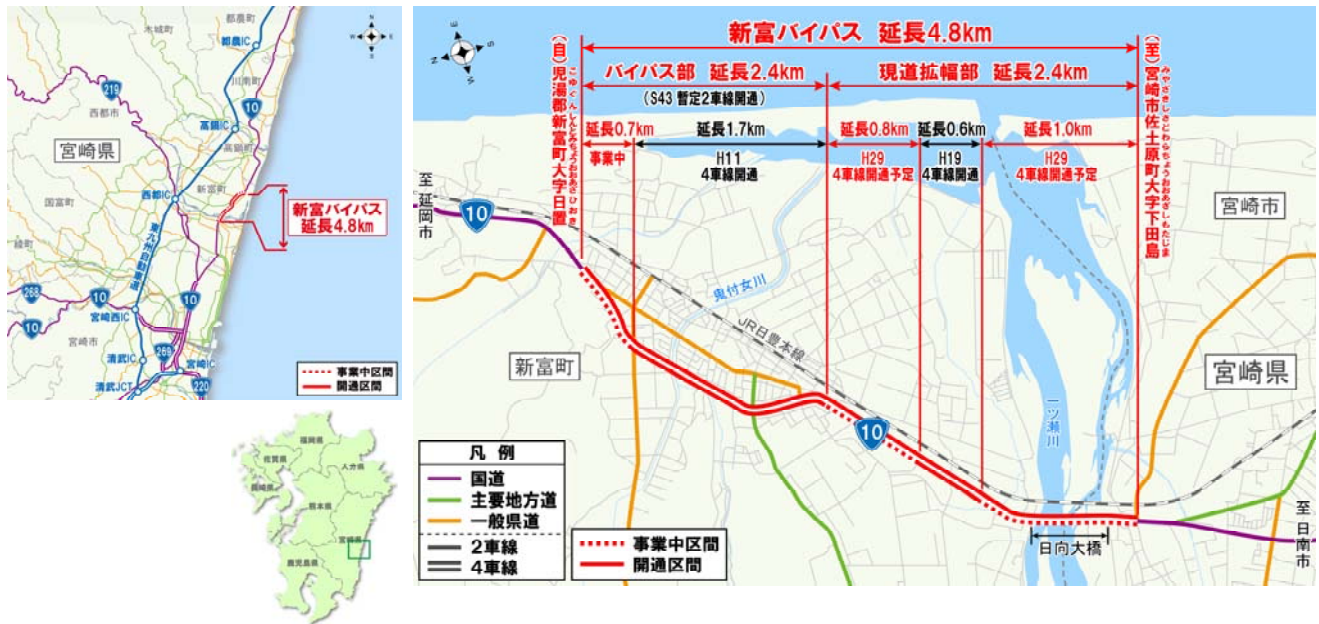
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。